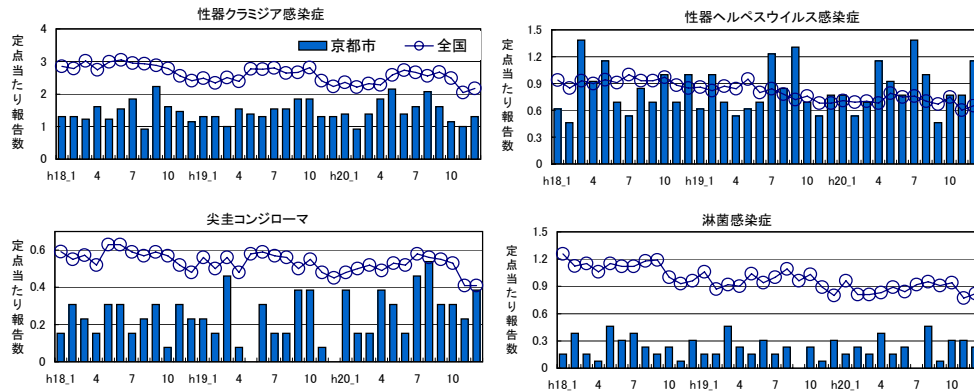


感染症発生動向調査 京都市月報(平成20年12月)

(性感染症定点13, 基幹定点1)

<性感染症>

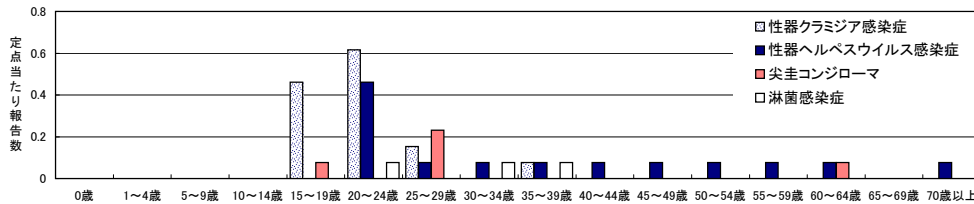
定点当たり報告数の推移(平成18年1月～)



平成20年の報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計報告数
性器クラミジア感染症	18	12	18	24	28	18	21	27	21	15	13	17	232
性器ヘルペスウイルス感染症	10	7	9	15	12	10	18	13	6	10	10	15	135
尖圭コンジローマ	5	2	2	5	4	2	6	7	4	4	3	5	49
淋菌感染症	2	3	2	5	2	3	0	6	1	4	4	3	35

12月の年齢階級別定点当たり報告数



<薬剤耐性菌感染症>

平成20年の報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<12月のコメント>

性感染症について、性器クラミジア感染症の定点当たり報告数は、1.31(報告数 17例)で、年齢階級別では、15~29歳、35~39歳で報告があります。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告数は、1.15(報告数 15例)で、20~64歳、70歳以上で報告があります。尖圭コンジローマの定点当たり報告数は、0.38(報告数 5例)で、15~19、25~29歳、60~64歳で報告があります。淋菌感染症の定点当たり報告数は、0.23(報告数 3例)で、20~24歳、30~39歳で報告があります。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症及び薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありません。全国のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告数は4.26、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は1.29、薬剤耐性緑膿菌感染症は0.08です。

なお、京都市内の各保健所では、平成19年4月から、性感染症検査の充実を図るため、HIV抗体検査と同時に、梅毒、淋菌感染症、性器クラミジア感染症、B型肝炎、C型肝炎の検査を実施しています。日程等、詳細については、保健医療課のホームページ(「保健医療課」で検索)に掲載しています。

(注:京都市のデータは:平成21年1月16日現在報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。)